

プレイヤーっていうやばい奴がいるんだよ

ビリオン

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

おう！ 兄弟、知っているか？

ギルドに新人が入ったんだよ。その新人って奴がまた拾いもんでな。先輩として鼻が高いのなんのつて！

よし、今日はそいつの話をして盛り上がろうぜ！

良い酒が飲めそうだ！

目次

プレイヤーっていうやばい奴がいるんだよ	1
イヤンクツクっていうやばい奴がいるんだよ	4
老山龍（ラオシヤンロン）っていうやばい奴がいるんだよ	7
番外編： ■ 猫っていうやばい奴がいるんだよ	10

プレイヤーっていうやばい奴がいるんだよ

おう！ 兄弟。知ってるか？

最近ハンターズギルドに良い新人が入って来たんだよ。

おお！ 知ってるか！

そりゃ良い。兄弟も耳が早いな。

そうそう、【K】っていう大剣使いでな。もちろん、初心者用の防具に簡素な大剣なんぞ背負っていたが、あれは良い。

何が良いって？ まず、身体だ。初心者用とはいえ、【K】が着ていたのは金属製だった。大剣も同様だ。

普通の新人じゃあ、身体が潰れるってもんよ。

だが！ だが、だ。兄弟。

【K】はそれを着て、武器を持って、普段と変わらないへつちやらかな顔しているんだぜ？

足運び一つ取っても、まるで普段と変わりやしねえ。

あん？ まるで普段の【K】を知っているようだった？

ああ。知っているさ。だが、大した事じゃない。家がすぐそばなんだよ。

【K】も俺も、此処の出身じゃないからな。遠路遙々来たハンターが泊まるどころなんて早々見つかるもんじゃない。こんな小さい村ならなおさらだ。

家の場所は知っているだろう？ 兄弟。

あそこのすぐ隣だよ。【K】の住んでいるところはな。

俺の時と同じく、空き家を改造したらしいぜ。

つつても、装備を外しているところなんて、先ず見ないけどな。

何故かって？ 知らねえよ。【K】は殆ど装備を外さない。

さっきの話は、ほんの僅かにある装備を外したタイミングを知っていただけさ。

あ？ ストーカーみたいだった？

馬鹿なこと抜かすんじゃない！ 俺は期待の新人に目をかけているだけだ。ちよつとした親切心からの行為だ。

そうだ。この話は知っているか？ 兄弟。

【K】なんだがよ。つい昨日、ジャギイの群れに囲まれたんだけどな。

あ！ おいおい、待て待て。

なんだって？ 一大事だって？

ジャギイの群れに囲まれたのがか？

そりや一大事だけだよ。もう済んだ事だ。つか、昨日の事だって

言っただろ。今日の朝、【K】を見てないとは言わせねえぞ？

そうだそうだ。落ち着け落ち着け。

思いやりに溢れるのは良いがな、兄弟。人の話は最後まで聞くもんだぞ。

で、もう結論を言ってしまったようなもんだが。あいつは生還した。

しかも、ジャギイの群れを半分以上倒してだぜ？ ちゃんと証拠がギルドに届けられてる。

ああ。兄弟の言う通りだ。そんな新人、普通はいない。

しかも、俺はあいつの噂を聞いたことが今までなかったんだ。

兄弟もか？ そうだろうな。

この村にあいつが来るまで、あいつは全くの無名だった。

そんな奴が、ジャギイの群れを半分以上倒せるんだぜ。

何処の秘蔵っ子だろうと不思議じゃないな。

案外、明日くらいにはドスジャギイ狩ってるかもしれねえぜ？

え？ それはない？

良いじゃねえか。それくらいの事期待したってよ。

まあ、世界は広いって事だ。

そうだ。本当に世界は広い。まだ見た事ないほど強いモンスター。

それすらも退けるハンター。

ああ。本当に世界は広い。馬鹿みたいに広い。

知っているか？ 兄弟。

世界には、古龍と呼ばれるバケモンみたいなモンスターがいるらしいぜ。

中には、天まで届くような巨体もいるとか。

んなバケモン信じらんねえな。それを倒すハンターはどんだけ
カッコいいんだろうな。

あん？ らしくねえって？

そうかも知んねえな。世界の広さを改めて知って、驚いてんだよ。

ああ。良いなあ。見てみてえよ。そんな奴ら。

ハッ！ 笑いたきや笑えよ兄弟。今日はいいい酒が飲めそうだ。

ん？ 何の用だ？ 受付の姉さん。

え？ 【K】の事話してたから声かけた？

——え？ あいつ、ドスジヤギイ倒したの？

イヤンクツクっていうやばい奴がいるんだよ

よお……、兄弟。

……あ？ 「元気がないようだが、どうした？」って？ そんなにわかりやすいか、俺は。

そうだよ。兄弟の言う通りさ。今の俺はまるで元気がねえ。

いつものように酒を呑もうとするが、まるで進まねえ。

理由？

……自分でもバカだって、思うんだがよお。

聞いてくれるかい？ 兄弟。

あいつが——【K】がドスジャギイを倒して今日で一週間ほど経つ。

……なんで【K】の名前が出てくるかって？ 関係あるからだよ。

なあ、兄弟。今朝、【K】の奴を見たか？

そうか……見たか。なら、気づいただろう？

何が？ 何がつて言ったのか兄弟!?

決まっているだろう!?

——あいつ、全身イヤンクツク装備だったんだよ！

イヤンクツクだぞ？ あのイヤンクツク！

調子に乗ったハンター達を数多地獄へ叩き落としたイヤンクツクだ！

あの怪鳥に挑んだハンターがどれだけ命を落としたことか……。

いや、今重要なのはそこじゃない。……率直に言ってしまうおう。

——なんであいつ、もうイヤンクツク狩っているの？

おかしいよな？ 絶対におかしいよな？

いや、不正だとか言う気はねえよ。だがよ……。だが——。

どう考えても釈然としない……!!

俺がイヤンクツク狩れたのいつだと思っているんだ!?

一年後だ！ ハンター始めて一年後だよ！

その前だって火に強いって聞いたモンスターを狩って、準備万端で

挑んだんだ！

あの時だって、村中大騒ぎだ！ 揃いも揃って、俺が負けて帰ってくるって思ってたからなあ！

……すまん、興奮しすぎた。

だが、【K】の奴はおかしい。最近はおドリ玉があるからいいが……。

【K】は自分の命がまるで無限であるかのように行動しやがる。死なないとも言うような確信があるかのようだ。

クエストから帰ってきて、即座に次のクエスト受けるだなんて日常茶飯事になってきやがる。

もう既に、初心者どころかこの村のハンター全員を超えてるように思えるんだ。

でさ、【K】の奴がどんどん先へ進むのを見て、俺は焦るんだ。怖くもなる。そのうち、憎たらしいくらいに思ってくるんだ。

思い出したよ。

これは、嫉妬つてやつだ。

俺に出来ないような事を簡単にやってのける【K】に、嫉妬してるんだ。

最近まるで感じることもない感情だったが、【K】が思い出させてくれた。

なあ、兄弟。久しぶりにクエストに行こう。

後ろから、凄いスピードの後輩がいるんだ。

先輩として、それに負けないぐらい進まなきゃな！

久しくクエストを受注してないからな、勘を取り戻すところからだ。

付き合ってくれるか？ 兄弟。

そうか。なら、行くぞ！

ボヤボヤしていると、【K】に追い越されてしまう！

【K】の奴、来週にはボルボロスの一体も狩っていいそうだからな！

受付の姉さん、クエスト見せてくれ。

あと、【K】の奴はどうだ？ 今日、なんのクエストを受けて行ったんだ？

——え？ 二体目のリオレイア？

老山龍（ラオシャンロン）っていうやばい奴がいるんだよ

……よお、兄弟。今日はお互い疲れたな。

そうだな、兄弟の言う通りだ。誰が思うんだって話だよ。

兄弟は考えたことあったか？

自分がまさか——古龍狩りに参加するだなんて。

——老山龍ラオシャンロン。恐ろしく巨大な、天災か何かのようなやつだった。

俺は一眼見て、思ったね。

『……俺は今日、死ぬんだ』ってな。

理解わかるだろう!？ 終わった今でも生きた心地がしねえよ。

……本当に俺たち生きてんのか？

老山龍あのデツカイモンスターにプチつと潰された先の天国だったりしないよな？

本当に今、宴なんぞしていいの？

いや、酒はうめえよ！ 今まで呑んだ物よりずっと高級ない酒だ。

……だが、本当に信じられねえ。あんな巨大な奴に勝てるだなんて。

奴が足を進める地響きだけでも、恐ろしかった。奴と対峙ランズして槍を突き出すだなんて事、もうやりたくもねえ。

大砲撃っているだけでも、逃げたくなかったんだ。

最後に、奴が倒れた時は——本当に現実なのかと自分の頬つねを抓つかったね。

理解わかってくれるだろう？ 共感わかってくれるよな？

なあ、兄弟。

ここにいるのは、あの天災を生き残った戦友達なんだよな……。

……戦友。これだけ見れば、心躍こころおどる言葉なんだがなあ。

あん？ 相変わらずビビリだった？

そうだよ！ 悪いか!？

そんな事俺は知っている！ そうだよ、俺が一番、よく知っている

……。

だから俺はランスを使っているんだ。何かあつた時、一番自分を守れるのはそれだからな。

やれ一番槍だの、やれ勇敢だの言うが——俺がランスを使うのは、一番堅いからだ。

例えば大剣なんかじゃ、防御と攻撃を同時にできない。

ガンナー？ あれこそ気が知れねえ！ あんな薄っぺらい装備で、どうやって自分の命を守るんだよ!?

何故、ガンランスじゃないかって？ あれは高いだろう、火薬なんか。それに、俺がハンターになった時にはガンランスなんて無かつたからな。

『じゃあ、今日の【K】を見てどう思ったか』だつて？

……正気じゃねえって言うのが、正直なところだ。まるで恐怖なんか感じてねえみたいだった。

【K】は本当に人間か？

……本当に俺たちと同じ人間か？

しかも今日は弓を使っていやがった。最初、大剣だったよな？

たまに【K】は武器変えているが、それでよく戦えるよな……。同じ武器種だつて、武器を変えれば重量や重心が変わるんだ。慣れるまでに時間だつてかかる。

それなのに、全く違う武器だと……。それだけ見ても正気を疑うほどだ。

だが、【K】は今日で一番の働きをした！

時に弓を番え、時に大砲を撃ち、時にバリスタを放ち、時に背に爆弾を仕掛けた。

あの老山龍ラオシャンロンを恐れないその姿は、俺には真似できねえ。

俺は思つたね。あいつこそ、この街一番のハンター。

天災モンスターを超える、英雄ハンターだつてな！

お、噂をすれば影だ。この宴の時に、あいつは忙しく走つてどこ行くのかね？

なあ、兄弟。賭けをしないか？

【K】が何処に何しに行くのか。宴には良い余興だろ？

俺は恋人にでも逢いに行くと思うね！

こんな生きるか死ぬかの戦いを越えたんだ。【K】の奴も、人恋しくなるんだろうさ！

兄弟はどう思う？

……あん？ 『モンスターを狩りに行った』？

馬鹿言うなよ！ こんな戦いの後だ。誰だって、ワイワイ騒ぎたいに決まっている！

こんな宴ほっぽって狩りをしたいと誰が思うんだよ!?

……あん？ なんの騒ぎだ？

どいつもこいつも酔いが覚めたかのように慌てふためいて。

おい、受付の姉さん！ これはなんの騒ぎだ？

——は？ 二体目の天ラオシャンロン災？

番外編：■■猫っていうやばい奴がいるんだよ

おう！ 兄弟、知っているか？

【■■】のやつが連れているアイルーのことなんだがな。名前を■■■■
■■って言って――。

ん？ どうした？

あん？ 『俺が変だった』って？

変ってどういう事だ？ 『まるで壊れているみたいだった』？

……言っている意味がよくわからないぞ、兄弟。

まあ、話を戻すぞ。そのアイルーっていうのが、まるでアイルーとは思えない強さでな。

あのリオ■■■スを一瞬で倒すだけの強さを誇るんだそうだ！ 信じられないか？

そうだろう！ 俺だって正直言って信じていない。

だが、みんな噂しているし、何よりギルドが証人だ。

どういうことかって？ 観測隊が戦闘中を見たらしい。しつかりとアイルーが戦っていたそうさ。

どう思う？ 証人はたっぷりだ。だが信じ■■■ない気持ちもわかる。

確かにアイルーの中にはハンターに匹敵する奴らもいる。

だけれども、俺たちの■■■がなくなるほど強力なアイルーっていうのもおかしな話だと思う……。

最近はおトモアイルーの質も向上しているら■■■からな。

知っているか？ ギルドはハンター代わりとして、おトモアイルーだけでクエストに向かわせるニャンター制度を作ろうとしているらしい。

つまり、ハンターがい■■■てもオトモアイルーニャンターがいれば十分とすら思われるかもしれ■■■ことだ。

確かに、ハンターにも常識を無視したような奴は多い。【■■】なんか
がいい例だ。

それが■■■モアイルーにも適用さ■■■というなら、あな■■■間違い

今■もう■み■。■にお■、兄■。
■怯■る。

■、【■】が連■...■の話■よ■■に。■弟

■■、無■な。

■、心■。■る■いつ■る■。

■ゆ■休■、明日■。

■■ら、■家■っ■。

■、【■】。

【■】。

【■】.....